

男女共同参画トップセミナーを開催しました 他	1
平成28年度JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業 他	2・3
オープンキャンパス同時開催「女性研究者と語ろう」 他	4

男女共同参画トップセミナーを開催しました

平成28年12月5日（月）、旦野原キャンパス事務局棟第2会議室において、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）科学技術プログラム推進部プログラム主管（プログラムオフィサー）山村康子さんを講師にお招きし、「女性研究者支援・養成事業の実績と今後の動向」という演題で、男女共同参画トップセミナーを開催しました。

学内の意識啓発のための取組の一つとして毎年開催している管理職を対象としたセミナーで、本学の理事、監事をはじめ教職員、立命館アジア太平洋大学からの聴講も含め、約40名の参加がありました。

講演会では、はじめに北野学長から、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげることが重要と挨拶があり、次いで、山村さんから様々なデータを用いながら、①日本の女性研究者の現状、②女性研究者支援・養成事業の実績と今後の動向、③大分大学への期待について、お話がありました。

特に、グッド・プラクティスとして、他大学等で取組まれている女性研究者支援事業の具体例を紹介していたき、大変参考になりました。さらに、大分大学男女共同参画行動計画で示されているように、数値目標を設定することが重要であるということ、そしてその実現のために継続的に努力することが大切であること、今後のワーク・ライフ・バランスの徹底を図る取組に期待しているということ等、本学の男女共同参画事業に対するメッセージも頂きました。

講演後の質疑応答では、参加者から、他大学の取組の詳細や本学が取組んでいる制度に対する意見を求めるなど、大きな関心が寄せられ、大変実りのある会となりました。

【男女共同参画広報・地域連携部門長 大下晴美】



講演する山村康子さん



学外有識者と学長との女性活躍に関する公開対談

平成28年11月7日（月）、旦野原キャンパスにおいて、本学経営協議会学外委員を務めていただいている由布院玉の湯 桑野和泉代表取締役社長と北野学長が、女性の活躍推進をテーマに対談しました。

当日は、会場に入りきれないほどの学生・教職員が詰めかけ、松浦副学長の進行のもと、北野学長から本学における女性活躍の現状と課題や今後の取組について紹介され、桑野社長からは経営者として女性が活躍することの必要性や重要性、また、これから社会人となる学生が大学で活躍する女性に出会うことの大切さなど、大分県におけるモデルケースとして大分大学が積極的に女性の活躍推進に向けた取組を実施して欲しいとの期待が語られました。

対談後は参加者も交えた意見交換が行われ、会場が一体となって改めて大分大学における女性の活躍促進について考える機会となりました。

なお、対談の詳細は、本学ホームページにおいて公開されています。



右から、桑野社長、北野学長、松浦副学長



前列中央左から、北野学長、桑野社長、松浦副学長と参加者の皆様

平成28年度JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業

母と娘のこころを揺さぶる現場体験 ー躍動するリケジョとの『一生わすれない』能動学習

男女共同参画推進室は、昨年度に引き続き、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）平成28年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に申請し、採択されました（応募数29件、採択数10件）。



ロボット制御プログラムを体験する女子高校生

本事業は昨年度までの単年度事業から、今年度から2か年事業にバージョンアップされましたので、昨年度以上に幅広い取組を行うことができるようになりました。

今年度は、「母と娘のこころを揺さぶる現場体験ー躍動するリケジョとの『一生わすれない』能動学習」と企画しました。昨年度、ものづくり理工系分野から求められている理系女子大学院生の状況を、文理コース分けする前の女子高校生あるいは女子中学生とそのお母さん（保護者）の双方に理解してもらい、ものづくり理工系分野へ進学する女子生徒を増やす様々な取組を行ってきました。今回はその取組の継続に加えて、ダム建設工事の「現場」で指揮する女性技術者との交流など、教室の中だけでなく、屋外の現場に立って、活躍しているリケジョとすることで「女性がその感性を活かした理系の仕事をやれる」ことを一生わすれない観念として脳裏に焼きつけてもらおうと「深い能動学習」に取組んできました。



ダム建設現場を見学する女子高校生

高校訪問講義型座談会

中学生（特に女子生徒）とその保護者、そして中学校・高校教諭を対象とした男女共同参画入門講義と女性研究者を交えた座談会を今年度は佐伯文化会館、大分県教育センター（以上、大分県）、西南学院中学校・高等学校、九州産業大学附属九州高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校（以上、福岡県）、長崎県立杵岐高等学校（長崎県）で計6回実施し、323名の参加者がありました。



英語で実験をレクチャーするDr. Ana Verissimo

2日目となる今年度は、昨年度のアンケート結果や中学校・高等学校からの要望を踏まえ、理数系が苦手になる前の中学生に対する意識付け、理系の楽しさを体感するミニ実験の実施、社会人女性技術者からのメッセージなどを新たに取り入れました。また、佐賀大学のDr. Ana Verissimo にもご協力いただき、英語による実験、3Dプリンターを用いた最新の医療技術の紹介なども行いました。

参加者からは、「工学部でもいろいろなことが学べるということが分かった。」「理系の方が結婚したあとも仕事をつづけられそう。」「実験によって理系の面白さを感じられた。」という声が寄せられ、毎回、大変有意義な会となりました。

来年度も本プログラムの継続採択が決定していますので、リケジョを目指す女子中高生が少しでも増えるよう、さらに素晴らしい企画を提供していきたいと考えています。

【男女共同参画広報・地域連携部門長 大下晴美】



リケジョの就職の変遷について説明するキャリア部門委員の石川先生



理系の楽しさを伝える
本学工学部の斉藤先生

ものづくり実験体験会

2016年9月17日



実験の楽しさに触れる女子中学生

2016年9月17日（土）、大分工業高等専門学校にて、中学生を対象とした実験体験会が開催されました。大分高専機械工学科による「デザートを味わいながら体験しよう～ティータイムで考える身近な熱の話題～」、電気電子工学科による「スタンドグラスをつくって、光のふしぎを知ろう!」の2講座に、中学生22名、保護者等23名の参加があり、ものづくりの楽しさを体験していただくことができました。また、女性技術者（高専OG）の話や、実験の手伝いをした大分高専女子学生との座談会もあり現役学生の生の声を聞くことができ理系に触れる良い機会になったようです。

機械工学（ロボット制御プログラム）・電気工学（電子ピアノ作り）・化学（合成染料作り）の実験体験会

2016年12月10日

2016年12月10日（土）、大分県内の女子中高生と保護者、先生を対象に、工学部の機械工学と電気工学、化学の「ものづくり実験」を体験してもらうための実験体験会とダム建設現場を訪問するバスツアーを同日開催しました。

日本の女性研究者数や仕事のやりがいと就業継続度の関係について、また、他国と比較した日本の現状、男女共同参画の必要性について話を聞いた後、ロボット制御プログラムや電子ピアノ作り、合成染料作りを親子で体験しました。今回、ロボット制御のコースではVR（バーチャルリアリティ）体験も行い、現在注目されている先端技術を親子で楽しく体感していただく大変良い機会となりました。約2時間の実験体験を終えたみなさんは笑顔で満ち溢れ、その様子から、理系の実験の楽しさを体験できたことがうかがえました。



電子ピアノ作り



VR（バーチャルリアリティ）体験



合成染料作り

伊良原ダム建設現場訪問バスツアー

今回、㈱日本建設業連合会「けんせつ小町委員会」並びに㈱大成建設の協力のもと、現在建設中の伊良原ダム（福岡県京都郡）の訪問バスツアーが実現し、女子高校生とお母さん方が同日訪問しました。

現場で活躍している㈱大成建設の女性技術者手嶋菜美さんから、日々の業務内容の説明や大学の工学部で土木建築を学び、卒業後建設会社に就職した動機などの話の後、ダムの強度計算問題に挑戦したり、建設途中の広大な現場の見学では、24時間体制で作業が行われるコンクリートの堤体を間近に見学しました。完成後はダムに沈む区域の説明など受けたり、どれも今しか見学できないものばかりで貴重な体験となりました。現場でイキイキと活躍する手嶋さんはとてもまぶしく感じられました。



就職の動機や日々の業務内容について話す手嶋菜美さん

社会で活躍する女性による講演会

住友化学㈱大分工場レスポンシブルケア部の中山美矢さんによる講演会では、ご自身の理系出身の経験談をもとに、その時の状況や時代の流れに沿って進路を選択すること一つ一つの進路決定方法であることなど、主に進路選択についてのアドバイスがありました。講演の終わりに、中山さんから「軌道修正は何度でもできる。失敗することを恐れず、いろんなことに挑戦してください。」と、これから未来へ羽ばたいていく生徒のみなさんに声援が送られました。



進路選択についてアドバイスする中山美矢さん



2017年1月27日

JST女子中高生理系進路選択支援プログラム講演会 「旭化成グループのダイバーシティ推進」

2017年1月27日（金）、旦野原キャンパスにおいて、大分県内の女子中高生の保護者や企業関係者を対象に、旭化成株式会社人事部ダイバーシティ推進室課長の吉澤明美さんをお招きし、講演会を開催しました。この講演会には本学学生そして教職員も参加し、当日約90名の参加がありました。講演では、旭化成グループでの現在の女性活躍推進の取組を挙げ、①女性が男性と同等に活躍できることを目指すこと、②「女性管理職」という枠にとらわれずに優秀な人材を登用しながらも、ロールモデルが少ない女性社員については管理職になるまでサポートを行うこと、③育児と仕事の両立支援については、男女とも「普通に」仕事ができることを目指して支援を行うこと、これらの重要性について話されました。

講演後に開かれたランチミーティングでは、職場におけるマネージメントに関することや男性の育児休業取得率のアップに向けてのヒントについてアドバイスをいただき、実りのあるひとときとなりました。



講演する吉澤明美さん

大分大学 女性大学院生の研究と大学生活 理工系の魅力を紹介！ 高校生・後輩へのメッセージ



小野 絢末さん

大分大学大学院工学研究科
工学専攻応用化学コース
BARM（ダンスサークル）同好会

研究内容

私は、キラルイオン液体触媒の開発を行っています。キラルとは、左手と右手のような鏡に映すと同じ形なのに、互いに重ね合わせることはできない関係のことで、この性質を持つものをキラル化合物と言います。またイオン液体とは、室温付近で液体状態を示す塩のことで、水や油に変わる第三の液体として注目されています。当研究室では、この二つの特性を持った触媒を研究・開発しています。

進路決定のきっかけ

高校に入学した当初はどの教科も平均的で、好き嫌いも特にありませんでした。しかし授業が進んでいくにつれて段々と難しくなっていき、「難しい→解けない→嫌い」という負のサイクルに落ちていく中、唯一無事だった教科が化学でした。理由は、単純に、化学の先生が面白かったから。たまたまこの先生との出会いがあった事で、私は化学が好きになり、文理選択で理系を選びました。また、大分大学のオープンキャンパスに参加した際に、応用化学科での研究の面白さを肌で感じ、私もここに入りたいという憧れから、現在のコースへの進学を決意しました。

工学部・工学研究科の魅力

私が所属している応用化学コースでは、1年次では一般科目を、2年次から専門基礎科目を中心に授業を受けます。3年次では基礎実験として、少人数に分かれて様々な分野の化学実験を行い、実験の面白さとレポートの大変さを味わうことができます。この時の実験から、自分が進みたい分野の研究室を考え、4年次で配属となります。化学の実験は危険と隣り合わせですが、どうしてこのような反応が起こるのか、どうしてこのようなものが生成されたのかを考察していくので、一つのことをとことん突き詰めていく事が好きな人は、きっと面白いと思います！また、工学部と聞くと女性が極端に少ないように感じるかもしれませんが、応用化学科はほかの科に比べると多く、女性でも将来活躍できる環境に恵まれていると思います。

高校生・後輩へのアドバイス

もし自分で、これ好きかも…これしてみたい！という思いが少しでもあれば、ぜひ飛び込んでみてほしいです。その後どうなるかは、またその時に考えてみてはどうでしょうか？動いたら動いただけ次の選択肢は広がりますし、ましてや好きなことの為なら、ある程度なんでもできると思います。ぜひ、今の気持ちを大切にしてください。

オープンキャンパス同時開催 「女性研究者と語ろう」

2016年
8月10日

2016年8月10日(水)、「女性研究者と語ろう」をオープンキャンパスに併せ、高校生と大学院生の交流を、挟間および旦野原の両キャンパスで開催しました。旦野原キャンパスでは、図書館のラーニング・コモンズに「女性教員と語ろう」のブースを設け、研究・学生生活紹介に高校生へのアドバイスをプラスした、大学院生たちがこの日のために作成したポスター展示を、挟間キャンパスでは、進学説明会会場において、松浦室長から男女共同参画推進室の取組などの紹介がありました。

挟間キャンパスにおいては、毎年、「女性研究者と語ろう」のブースを説明会会場外に設けており、今年度も部門委員の先生や附属病院で勤務する現役の女性医師たちが、立ち寄られた高校生や保護者の方々と歓談しました。参加高校生からは、「臨床の仕事だけでなく、研究をすることで人を助けることにつながるということにすごく興味がわきました。」などの声が聞かれました。



女性医師と歓談する
高校生たち

教養教育科目「男女共同参画入門」

開講から3年目となる今年度の教養教育科目「男女共同参画入門」は、各学部から64名の学生が受講しました。各学部の先生方をはじめ大分県男女共同参画プラザ(アイネス)や労働局からも講師をお招きし、様々な観点から男女共同参画を学びました。

後半のグループワークでは、将来起こりうるリアルなケースについて、利用できる制度などについて調べ、9チームがその結果をポスター作成、発表する予選を行いました。勝ち抜いた3チームによる最終審査では、夫役、妻役、そして熱のたつ子供役も登場するロールプレイもあり、学んだ成果を演じてくれました。松浦室長と男女共同参画推進室部門委員の先生方による審査の結果、3チームには最優秀賞をはじめとする賞が、惜しくも決勝に残らなかったチームのポスターの中から1チームに、室長賞がおくられました。



最優秀賞を受賞したチーム

受講した学生からは、「『男女共同参画』という言葉は知っていたが、その意味や必要性を知ることができた。」「学んでいくごとに自分の将来について考えることができた。」「グループワークでは違った意見や考え方があって難しかったが、普段このようなことを考えることがないので、良い機会になった。」などの感想がありました。

講義、グループワークにご協力いただきました先生方にはこの場を借りて心からお礼申し上げます。



講義の様子

タイの理系女子(リケジョ)10名を含む 13名の高校生との交流会

2016年
10月11日

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(「さくらサイエンスプラン」)に大分大学医学部とタイのサイエンス・ハイスクールの高校生との交流事業が採択され、2016年10月10日から17日にタイの高校生13名と引率教員1名が大分を訪れ、そのうちの11日に大分大学の研究者との交流会を行いました。



女性の社会進出について、日本の状況を英語で話す松浦室長

大分大学さくらサイエンスプラン担当の内田智久先生の司会で、タイの女子高校生2名と男子高校生1名、および、タイから本学に留学している大学院生のパーさんによる研究発表と質疑応答、タイと日本の女性の社会進出についての考え方の違いについて英語でのフリートークが行われました。

タイの高校生たちの積極的な姿勢と明るい人柄で、今年度も終始和やかな雰囲気の中、楽しい交流会となりました。

大分大学開放イベント2016 「女性研究者の学会派遣報告展示」

2016年
11月6日

11月6日(日)の大分大学開放イベント2016の企画として、「女性研究者の学会派遣報告展示」を開催しました。

男女共同参画推進室では、女性研究者のスキルアップ及び女性大学院生のキャリア形成を支援し、研究へのモチベーションの向上や研究の活性化を促進することを目的として学会派遣支援を行っており、毎年女性研究者10名程度を国内外に派遣して、学会活動あるいは共同研究活動を支援しています。



協力してくれた大学院生たち

この報告展示では、支援を受けた女性研究者が学会で発表した研究内容、学生生活についてポスターを作成、展示し、来場された地域の方や中高生などからの、疑問や質問に答えました。当日は、71名もの方々が来場されました。

《女性活躍推進法に基づく行動計画》

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)が平成27年8月28日に国会で成立しました。これにより、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主(国や地方公共団体、民間企業等※)に義務付けられました。(※常時雇用する労働者が300人以下の民間企業等においては努力義務)

大分大学の行動計画は以下のとおりです。

国立大学法人大分大学における女性活躍推進法に基づく行動計画(第1期)

女性が指導的役割を担う役職として活躍できる雇用環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

- 1 計画期間 平成28年4月1日～平成31年3月31日までの3年間
- 2 本学の課題
 - (1) 管理職に占める女性割合が低い。
 - (2) 教育職員に占める女性割合が低く、かつ指導的役割を担う教授職に占める女性割合も低い。
 - (3) 男性の育児休業取得者が平成23年度以降いない。
- 3 目標と取組内容

目標1	管理職(課長級以上)に占める女性割合を15%以上とする。
目標2	教育職員に占める女性割合を20%以上、教授職に占める女性割合を17%以上とする。
目標3	男性の育児休業取得者を10%以上とする。
目標4	家庭生活と教育・研究・就業との両立支援をおこなう。

※詳しくは男女共同参画推進室のホームページをご覧ください。

第8回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin沖縄

2016年
11月11日

2016年11月11日(金)、琉球大学にて、「第8回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin沖縄」が開催されました。本学から松浦恵子副学長がパネリストとして出席し、大分大学の国際化の状況、2015年8月にオープンした大分大学バンコクオフィスの開設により、これまで大分大学が行ってきたタイでの医療技術の連携を更に深化させるとともに、東南アジア諸国連合(ASEAN)域内における人材交流拠点としての活用が期待されること、また、JST事業さくらサイエンスプランによるタイの高校生と女性研究者の交流会の実施などについて紹介しました。



(右) 本学の取組について紹介する松浦副学長